

地方創生推進交付金事業実施評価

交付対象事業の名称	事業内容・評価	実績額 単位:円	本事業における重要業績評価指標(KPI)										評価	実績を踏まえた今後の方針	外部有識者の意見		
			指標		H28		H29		H30		H31					H32	
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値				目標値	実績値
さかたへの移住・定住に向けたトータルサポート事業	【日本版生涯活躍のまち構想推進】(地域共生課) 生活クラブ生協と連携し、酒田市を食の故郷として親密に感じている組合員に、酒田市の情報と暮らし方の提案を行った。また、首都圏における情報発信の拠点として、酒田市役所東京吉祥寺テラスを運営し、酒田市の魅力発信を行うとともに、移住相談の窓口として対応した。ほか地域プロデューサーを配置し、構想を実現する為、首都圏のニーズや情報をフィードバックしながら、検討会等を行った。首都圏における情報発信の効果が少しずつであるが、始めている。	14,681,897	指標①	移住者数(人) 「5年間で移住者数300人」	30	39	40	32	60		70		81	地方創生に相当程度効果があった	【日本版生涯活躍のまち構想推進】 今後は検討してきた構想を基本計画としてまとめることで、より具体的に発信していくことが可能になると考えられる。一定の関心層との関わりを継続しつつ、更なる関心層の取り込みを図っていききたい。	移住定住の推進・UJターンへの促進について、市が全て対応するのではなく、分野によって任せられる箇所は関係機関へ任せるべきで、求人情報の共有など関係機関との連携強化を行うべき。 日本版生涯活躍のまち構想については、元気な高齢者の労働力を求めているのか、消費力を求めているのか、市のメリットを今一度検証すべき。移住の拠点は、今後の行政コストを考慮し、中心市街地のほうが良いと考える。 将来にむけた課題だが、移住定住の取組は、市単独でなく庄内全体で実施すべき。	
	指標②		移住総合相談窓口における相談件数(件) 「相談件数5年間で1,000件」	150	105	160	132	170		180		213	【UJターンの促進】 「さかた産業フェアツアー」により酒田市のPRを行うとともに、地元企業への就業機会の拡大を図り、若者の地元定着を促進する。 ツアーの内容についても、より参加者の興味を引き、UJターンの動機付けとなりうるものになるよう検討していく。				
	【移住交流の推進】(地域共生課) 総合相談窓口設置によるワンストップ化、積極的なPR展開や移住者交流会の開催に対する支援など総合的な施策を展開した。 チラシ・パンフレットの刷新や移住お試し住宅の運用開始、SNSの活用、移住プロモーション動画の作成など移住検討者となつがる新しいチャンネルが増えたことが、移住相談件数の増加につながっている。相談者は将来の移住予備軍であることから、本事業の効果は高い。		【移住交流の推進】 移住(検討)者に対する総合的な支援の必要性は高いことから、ニーズを把握しながら必要な支援策を具現化していくとともに、専用の移住ポータルサイトの開設および運用等を通して、引き続き移住を切り口としたPRに注力し、更に移住・定住対策を推進していく。														
	【UJターンマッチング支援】(地域共生課) UJターンコーディネーターを配置し、市ホームページに求職・求人の情報を掲載し職業紹介を行う「UJターン人材バンク」を運営するほか、UJターン就職希望者へハローワーク求人情報や就職ガイダンス等の情報を提供した。 UJターン人材バンク及びUJターンコーディネーターにより、UJターン就職の実績が増加しており事業効果は大きい。		【UJターンマッチング支援】 UJターン人材バンク及びUJターンコーディネーターによりUJターン就職を促進させる。														
	【住まいへの支援】(まちづくり推進課) 平成29年度に空き家の利活用と移住定住の更なる促進を目的に、空き家等情報サイトを開設し、インターネット上で物件情報を発信した。計5件の契約につながった。		【住まいへの支援】(まちづくり推進課) 空き家等情報サイトの物件数の拡大を図る。														
	【郷土愛の醸成】(社会教育文化課) これからは担う子どもたちが、現代社会を生き抜くうえで確かな力、身に付けなければならない基本的な知識の習得や会話、職業観の醸成、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、郷土愛の醸成を図った。 地元庄内で働く若者から「仕事の楽しさ」や「人生の面白さ」を直に聞く機会を提供しており、地域で働くことや郷土に対する関心を高めることに寄与している。		【郷土愛の醸成】 提供メニューの見直しや実施校の拡大を図る。														

※ 評価

- ・地方創生に非常に効果があった ⇒ すべての目標値を達成したなどの場合
- ・地方創生に相当程度効果があった ⇒ すべての目標値を達成することはなかったものの、目標値を相当程度(7割以上)達成したなどの場合
- ・地方創生に効果があった ⇒ 目標値を達成することはなかったものの、事業開始前よりも改善したなどの場合
- ・地方創生に効果がなかった ⇒ 実績値が本事業開始前の数値より悪化したなどの場合

地方創生推進交付金事業実施評価

交付対象事業の名称	事業内容・評価	実績額 単位:円	本事業における重要業績評価指標(KPI)										評価	実績を踏まえた今後の方針	外部有識者の意見		
			指標		H28		H29		H30		H31					H32	
					目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値				目標値	実績値
酒田港を活かした「産業・交流都市さかた」実現プロジェクト	【酒田港を拠点とした農産物輸出拡大に向けた取組み】 酒田地区農産物輸出推進協議会に負担金を支出し、ロシア(サンクトペテルブルク、モスクワ)での啓発様のプロモーション活動を行った。 ロシアでの花きのプロモーション活動は、現地での評価も高く、取引の拡大が期待できるものであった。また、新規にベトナムへの輸出が実施され、着実に輸出量が伸びている。東南アジア、ロシアへの啓発様の輸出は、国内価格が低下する2~3月に限定することにより、販売額の向上につながっている。	13,719,858	指標①	酒田港コンテナ貨物取扱量(TEU) 「13,799TEU/年(H26)→ 31,000TEU/年(H30)」	23,000	23,658	27,000	28,365	31,000						地方創生に効果があった	【酒田港を拠点とした農産物輸出拡大に向けた取組み】 テスト輸送や、継続して海外でのプロモーション活動を実施し、米や他の農産物についても関係機関に働きかけを行い、生産の拡大と販売額向上を図る。 本市は法人化が進んでおり、優秀な経営者が米+売れる園芸作物で複合経営を進め、それを庄内パイオ研修センターが支援する仕組みができるとうい。客船誘致にかかる歓迎イベントは、寄航回数が増えたときに、人的・金銭的にも負担が増えてしまうというのが大きな課題である。	
	指標②		農産物輸出量(米果実等)(t) 60t(H26)→68t(H30)	64	64	66	25	68						【庄内パイオ研修センターを活用した新たな特産品開発】 センターの活用方法や関係団体との役割分担等について検討していく。			
	指標②		農産物輸出量(花き・花木)(本) 900本(H26)→6,500本(H30)	3,700	7,490	5,100	20,970	6,500						【園芸特産化支援センター活用】 園芸作物の品質向上が図られ、一定の役割を果たした。29年度で事業を終了し、今後は各JAが主体となった体制のもとで実施していく。			
	指標③		創業件数(件) 「H30までに60件」	20	31	20	45	20						【創業支援】 創業希望者に対する細やかなフォローアップと助成制度の充実により、創業件数も増加しており、引き続き関係機関と連携しながら創業を促進する。			
	【客船の誘致】 誘致活動及び歓迎対応の成果により寄港回数は6回となり、酒田港初の外国クルーズ船が寄港した。													【客船の誘致】 引き続きクルーズ船の誘致及び寄港時の歓迎式典等を実施し、酒田港への更なる寄港増加を目指す。			

※ 評価

- ・地方創生に非常に効果があった ⇒ すべての目標値を達成したなどの場合
- ・地方創生に相当程度効果があった ⇒ すべての目標値を達成することはなかったものの、目標値を相当程度(7割以上)達成したなどの場合
- ・地方創生に効果があった ⇒ 目標値を達成することはなかったものの、事業開始前よりも改善したなどの場合
- ・地方創生に効果がなかった ⇒ 実績値が本事業開始前の数値より悪化したなどの場合

地方創生推進交付金事業実施評価

交付対象事業の名称	事業内容・評価	実績額 単位:円	本事業における重要業績評価指標(KPI)												評価	実績を踏まえた今後の方針	外部有識者の意見	
			指標		H29		H30		H31		H32		H33					
					事業開始前	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値				実績値
酒田発ヘルスケアビジネス創出プロジェクト	【酒田発ヘルスケアビジネス創出プロジェクト】 健康寿命の延伸とヘルスケアビジネスの拠点となる施設を整備し、健康状態や運動量をデータとして把握・管理することができる環境づくりを行い、健康状態の見える化を図り、一人ひとりの目標や目的意識に合わせて保健指導や栄養講座、健康セミナー、歩数イベント等を組み合わせ新たな健康づくりのプログラムを構築した。健康ポイント制度の導入を検討し、健康づくりのインセンティブを高めるとともに、民間事業者等と連携し、商店街等に足を運んでもらう仕組みを構築する準備をした。また、健康拠点の近隣に健康メニューを提供するカフェを整備し、障がい者の就労を促進した。	7,924,886	指標①	中町にぎわい健康プラザ収入(千円)	0	9,000	11,406	9,900	10,800							地方創生に相当程度効果があった	【酒田発ヘルスケアビジネス創出プロジェクト】 健康づくりの視点を増やし、健康プログラムの提供により運動習慣、食習慣の改善に取り組む市民を増やしていくとともに、タニタヘルスリンク等と連携した酒田産食材を活かした健康メニューの提供、湊町酒田の魅力を体験できる街あるき観光・地域活動等と組み合わせ、ヘルスケアビジネスの創出を図る。	酒田市総合計画には「健康寿命の延伸」という大きな目標があり、それを達成するための手段に本プロジェクトがあることについては、よい取組だと考える。 「健康寿命の延伸」という大きな目標のため、原課のみならず、市全体で施策を共有・連携し、取り組んでいく必要がある。
指標②	20～64歳の定期的な運動習慣者の割合(%)	29.6	32.0	4.8 (34.4)	35.0	38.0												
指標③	中心市街地の主要観光施設入込数(千人)	1,594	1,606	H31.6確定予定	1,618	1,636												

※ 評価

- ・地方創生に非常に効果があった ⇒ すべての目標値を達成したなどの場合
- ・地方創生に相当程度効果があった ⇒ すべての目標値を達成することはなかったものの、目標値を相当程度(7割以上)達成したなどの場合
- ・地方創生に効果があった ⇒ 目標値を達成することはなかったものの、事業開始前よりも改善したなどの場合
- ・地方創生に効果がなかった ⇒ 実績値が本事業開始前の数値より悪化したなどの場合

地方創生推進交付金事業実施評価

地域再生計画の名称	事業内容・評価	実績額 単位:円	本地域再生計画における重要業績評価指標(KPI)										評価	実績を踏まえた今後の方針	外部有識者の評価・意見
			指標		H29		H30		H31		H32				
					目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値			
官民協働・地域間連携による住民主体の地域づくり推進事業	南部地区(松山)、田沢地区(平田)、大沢地区(八幡)の3地区で地域運営組織の形成を目指し、住民が主体となったワークショップを開催した。今年度は、それぞれの地区で地域課題が洗い出され、今後の方向性、取り組むべきプランがまとめられた。	4,842,129	指標①	中間支援プラットフォームによる住民主体の地域活動拠点(地域運営組織)形成	5	3	1		1		2		地方創生に効果があった	取り組むべきプランが策定された3地区においては、地域運営組織形成に向けて具体的に実施する事業等の検討を図る。	地域住民が自分たちのことを自分で考えてまちづくりをする。これは絶対必要なことであり、モデル事業が終了しても進めていくべきこと。市街地にも広めていく方向性についても賛成する。 今回のプランがコミュニティ振興会の事業計画と別物であってはならず、地域の課題は何か、地域住民ができることは何かを計画すること。 地域と絡む事業について、重複する部分があるため、関係機関と整理・連携することが必要。

f

※ 評価

- ・地方創生に非常に効果があった ⇒ すべての目標値を達成したなどの場合
- ・地方創生に相当程度効果があった ⇒ すべての目標値を達成することはなかったものの、目標値を相当程度(7割以上)達成したなどの場合
- ・地方創生に効果があった ⇒ 目標値を達成することはなかったものの、事業開始前よりも改善したなどの場合
- ・地方創生に効果がなかった ⇒ 実績値が本事業開始前の数値より悪化したなどの場合

地方創生推進交付金事業実施評価

交付対象事業の名称	事業内容・評価	実績額 単位:円	本事業における重要業績評価指標(KPI)										評価	実績を踏まえた今後の方針	外部有識者の意見		
			指標		H28		H29		H30		H31					H32	
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値					
新産業振興センター(仮称)創設事業	【新産業振興センター設置】 酒田市産業振興まちづくりセンターの設置に向けた準備、創業支援を含むいくつかのプロジェクト組成に取組んだ。 創業実績は目標以上の成果を残した。企業、専門家等とのマッチングによるビジネスプロジェクトの組成については、目標どおりの件数及び契約金額(売上金額)を達成することができた。	1,542,750	指標①	センターのマッチングにより創出されるビジネスプロジェクトの契約金額「H33までに138,720千円」			1,020	27,788	34,425			34,425			地方創生に非常に効果があった。	【新産業振興センター設置】(商工港湾課) 30年度以降は本センターの本格稼働に入る。環境整備は30年度前半で大凡完成するため、多様なプロジェクト組成に向けてヒアリング、セミナー・セッションの実施に取組んでいく。	本センターの取り組みについてはとても期待している。ただ、まだまだ市内企業は、本センターのことに関心が無いため、より積極的なPRが必要。 5年後の法人化を目標に掲げているが、法人化した後の組織体制作りも課題。
			指標②	センターのマッチングにより創出されるビジネスプロジェクトの件数「H33までに544件」			4	4	135			135					
			指標③	センターの支援により創業した件数「H33までに140件」			20	45	30			30					

※ 評価

- ・地方創生に非常に効果があった ⇒ すべての目標値を達成したなどの場合
- ・地方創生に相当程度効果があった ⇒ すべての目標値を達成することはなかったものの、目標値を相当程度(7割以上)達成したなどの場合
- ・地方創生に効果があった ⇒ 目標値を達成することはなかったものの、事業開始前よりも改善したなどの場合
- ・地方創生に効果がなかった ⇒ 実績値が本事業開始前の数値より悪化したなどの場合

地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)事業実施評価

地域再生計画の名称	事業内容・評価	実績額 単位:円	本地域再生計画における重要業績評価指標(KPI)								評価	実績を踏まえた今後の方針	外部有識者の評価・意見		
			指標		H28		H29		H30					H31	
					目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値				目標値	実績値
東北公益文科大学生酒田定着プロジェクト	本市から東北公益文科大学に進学した学生及び入学を機に本市に在住する学生の大学卒業後の本市定住を促進するため、奨学金返還支援制度を創設した。他地域出身学生の本市定住の事例もあり、一定の成果が得られた。	5,400,000 (うち寄付額 2,400,000)	指標①	東北公益文科大学卒業生の奨学金返還支援制度の活用による市内定着人数	10	8	10	7	10		10	地方創生に効果があった	公益大生の本市定住を促進するため、支援を継続する。年度当初の学生ガイダンスなどで、学生への制度の一層のPRを行い、東北公益文科大学生の本市定住を促進していく。	奨学金は事実上、多額の借金を新社会人に負担させてしまうため、こういった形で負担を緩和してあげることは意義のある事業と考える。31年度までに限らず、継続して取り組むべき。	

※ 評価

- ・地方創生に非常に効果があった ⇒ すべての目標値を達成したなどの場合
- ・地方創生に相当程度効果があった ⇒ すべての目標値を達成することはなかったものの、目標値を相当程度(7割以上)達成したなどの場合
- ・地方創生に効果があった ⇒ 目標値を達成することはなかったものの、事業開始前よりも改善したなどの場合
- ・地方創生に効果がなかった ⇒ 実績値が本事業開始前の数値より悪化したなどの場合